

## 教科等研究会（中学校国語部会） 令和元年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

確かな学力を育む「分かる・できる」「楽しい」国語科授業作り  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回			第 4 回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/3	20	嘉島中	8/8	嘉島中		11/19	益城中	石山 萌花 教諭	1/23	嘉島中	山田 修平 教諭

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

上益城郡教科等研究会全体研究テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業作り」を受け、国語部会では令和元年度の研究テーマを「確かな学力を育む『分かる・できる』『楽しい』国語科授業作り～主体的・対話的で深い学びを通して～」と設定した。本年度は各学校からの現状を出し合った。そこから「書くこと」に課題があることがわかった。そこで「書くこと」に視点を当てた研究に取り組むことにした。

#### ①組織づくり

第1回目研究会では、新学習指導要領を見据え研究テーマの設定を行った。さらに部会を「1年生部会」と「2年生部会」に分け研究を進めることにした。

#### ②夏季研修

8月の研修では、上益城郡の国語科の課題である「書くこと」について阿蘇市立波野小学校濱本竜一郎校長に講話をいただいた。

濱本先生には、「新学習指導要領をふまえた国語科の指導と評価から『書くこと』の実践を中心に～」をテーマにお話をいただいた。「主体的な学びのポイント」では、見通しと振り返りについて。「対話的な学びのポイント」では、友達との対話だけではなく、作者や教師、自分自身との対話について。「深い学びのポイント」では、言葉による見方・考え方を意識することについてお話をいただいた。また、実際の教材を使つての講話をいただき、具体的に実践できる例を示していただいた。



さらに、この研修では、各先生方の「『書くこと』についての実践報告」をしていただき、日々の授業のなかでどのようにして、力を付けていくか率直な意見交換が行われた。

#### ③授業研究会

本年度は、「主体的・対話的で深い学び」を意識するために、「平成30年度熊本県学力調査」リーフレットの「授業改善のためのチェックリスト」を活用し「ポイントの内容」として指導案の中に示した。この9つの視点を示し、1時間の授業では、どの部分に視点を絞るのかを明確にし、それをもとに協議を行っていった。

視点	ポイントの内容
主体的な学び	主1 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返りして自身の学びや変容を自覚させることができる。
	主2 学ぶことに興味や関心を持ち、これまでの学びにあてはめながら見通しを持って粘り強く取り組ませることができる。
	主3 自分が学んだことを振り返って、次にやってみよう（やらないといけない）ことを持つことができる。
対話的な学び	対4 学習課題（問題）に対して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
	対5 他者との対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすることができる。
	対6 仲間同士で協働しながら課題解決に向かうことができる。
深い学び	深8 既に持っている知識・技能と新しい知識・技能と結びつけ、生活の中で生きて働くものとして習得させることができる。
	深9 習得・活用・探求という学びの過程の中で、見方・考え方を働かせて考えることができる。

授業研究会では、2部会ごとに研究授業の検討をおこなった。事前研究会を放課後に2回ほど開催した。事前研究会では、指導案の検討、効果的な発問、ワークシートについての話し合いが行われた。「1年生部会」では「目的や相手に応じて、情報を編集する行事案内リーフレッ

ト」を「互いのレイアウトへ助言し合う活動を通して、新入生に向けたリーフレットのレイアウトを工夫することができる」の目標で行われた。「2年生部会」では、「推論と対話で考えを広げる主張文」を「対話を通して、他者の主張や根拠を知ること、自分の考えを広げることができる」の目標で行った。

## (2) 成果と課題

### ①成果

- ・視点を示すことで授業や授業参観を絞って見ることができた。
- ・夏の講話では、「主体的・対話的で深い学び」の知識面を学ぶことができた。
- ・各学校の課題を出し合うことで、上益城郡としての取り組みの方向を共有することができた。
- ・生徒が対話を通して気付いたことを発表したい。

### ②課題

- ・評価の観点の明確が必要。
- ・国語科の見方・考え方をより働かせることが大切。
- ・県学力調査や全国学力学習状況調査の活用。
- ・研究主題との関わりを考えた授業作り。

## 4 実践事例

### (1) 1年生部会（三省堂1年「目的や相手に応じて、情報を編集する 行事案内リーフレット」）

#### ①授業者自評から

- ・今回はレイアウトを工夫することに絞って行った。
- ・子どもたちが頑張ってくれた。

#### ②質疑

- ・本時の手順が示され、単元を通した見通しがあった。
- ・付箋を使い修正がしやすかった。
- ・リーフレットが完成したどうするのか（A4月の授業で新入生の渡す予定）。

#### ③研究協議から

- ・振り返りを共有できていた。
- ・生徒同士のアドバイスの言葉がよかった。
- ・「不安を解消」とするよりも「興味をもつて」「楽しく見てもらうため」がよかったのでは。
- ・個人思考の時間が確保されていた。



### (2) 2年生部会（三省堂2年「推論と対話で考えを広げる 主張文」）

#### ①授業者自評から

- ・「本時の見どころ」「対5 他者との会話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすることができている」と「深8 習得・活用・探求という学びの過程の中で、見方・考え方を働かせて考えることができるている」の2点を重点に取り組んだ。
- ・主張文の仕方がもっと散らばる形になればよかった。
- ・単元の最後に今回学んだことを今後こういったところに生かせるか考えさせたい。

#### ②質疑

- ・ワークシートに三角ロジックの事実がすでに書いてあったが、生徒に読み取りをさせたのか。
- ・教師が考える「広がり、深まり」とは何だったのか。
- ・前時で推論するときどのようにさせたのか。

#### ③研究協議から

- ・落ち着いた授業態度で教師と生徒の信頼関係ができていた。
- ・板書がすっきりして見やすかった。
- ・事前に推論をさせてあったので対話で新しい発見が少なかった。
- ・ワークシートの質問を書く欄の空欄が多かった。



### (3) まとめ

前時の学習で推論をやりすぎていたので、生徒の意識が高まらなかった。生徒に目的意識をもたせることが大切。県学力調査や全国学力学習状況調査の活用をすることが大切との助言をいただいた。

1年生部会指導案

(1) 目標

○互いのレイアウトへ助言し合う活動を通して、新入生に向けたリーフレットのレイアウトを工夫することができる。

(2) 展開

学習過程	学 習 活 動 【 】: 研究の視点	形態	指導上の留意点及び評価 《 》: 評価方法	備 考
導入 (5)	1 前時のワークシートを見て、どんな内容をリーフレットにしようとしていたかを確認する。 2 本時の目標を理解する。 【視点1】主2	一斉	・前時の学習を振り返り、新入生のための不安を解消させるリーフレットであることを意識付けさせる。 ・レイアウトとは、配置のことであると伝える。 ・めあてを穴埋めにし、音読させる。	・スライド ・ワークシート②  ・フラッシュカード
<p>【本時の学習目標】新入生に向けた、不安を解消することができるリーフレットのレイアウト（配置）を決めよう。</p>				
展開 (10)	3 実際のリーフレットを見て、一番伝えたい内容がどこに配置されているか考える。	一斉	・「地獄めぐり」のリーフレットの、一番伝えたい面を決める。 ・何面使うか、見出しや写真の大きさ、開きやすさ、などの配置が重要だと気付かせる。 ・内容については触れないようにする。	・「地獄めぐり」リーフレットのレイアウト拡大図 ・レイアウトの紙
(10)	4 伝えたい順番を再度確認し、リーフレットの内容の項目を下書きにあてはめる。	個人	・四つの見出しのレイアウトは必ず完成させるように指示する。 ・スライドで「地獄めぐり」リーフレットのレイアウトは映し出したままにする。	・大付箋 ・中付箋
(15)	5 班で助言を行い、レイアウト図を完成させる。 (1) レイアウトで迷ったことや悩んだことを書き出す。 (2) 班で助言を言い合う。 (3) 助言を基に下書きを改善する。 【視点2】対5	個人 →班	・助言の観点として、「見やすいレイアウトになっているか、伝えたい順番がわかるようなレイアウトになっているか、見出し（内容）の数は適切か。」を与える。  B：伝えたい内容を適切な位置に配置し、どんな工夫を行えたか説明できる。 ●：机間指導を行い、別の生徒のレイアウトを参考にさせたり、既存のリーフレットを見せたりする。 《行動観察、ワークシート②》	
まとめ (10)	6 学習したことを振り返る。		・自己評価と振り返りを書かせる。 ・「あとがき」を書く際に必要になるため必ず書くよう指示する。	

2年生部会指導案

(1) 目標

- 対話を通して、他者の主張や根拠を知ること、自分の考えを広げることができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動 【 】: 研究の視点	形態	指導上の留意点と評価 《 》: 評価方法	備考
導入 5分	1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。	個人	○3つの行動の基になった考え(判断)について推論したことを振り返り、本時では自分がどの行動を支持するかを考えることを伝える。	めあてカード
展開 35分	2 自分が責任者の立場だったら、どの行動を支持するか、三角ロジックを活用して整理する。 ・Aさん <u>主張</u> : 受け入れない <u>事実</u> : 犬を怖がる子どもや苦手な大人がいる <u>理由づけ</u> : 自分の知ってる人にはアレルギーがある人もいるから 3 ペアで対話する。【視点2】対5 ・ <u>主張</u> 私はBさんの行動を支持します。「事前にペットを受け入れると決められているのに、お年寄りには寒さで震えている」という <u>事実</u> があります。決められたルールを変えると新たな混乱が生まれる可能性もあるし、困っているお年寄りを助けるべきだと思うからです。 <u>理由づけ</u> 4 全体で共有する。【視点3】深8 ・私は対話を通してBさんの行動を支持するという主張は変わりませんでした。反対する人たちには責任者として、事前に決められたルールを守らなければならないという説得すべきだと思います。その上でアレルギーがある方となるべく離れて過ごすなどの方法を工夫したいと思います。	個人  ペア  全体	○既習の三角ロジックを用いて考えや根拠を整理させる。また、板書にも示すことで活用しやすくする。 ○自分の主張に対して、適切な根拠(事実・理由づけ)になるよう、説明や具体例を加えさせたり、自分が災害時に優先したいことは何なのか整理させたりする。 ○自分がどの行動を支持するのか、黒板にネームプレートを貼らせる。 ○初めに対話の仕方を説明し、隣同士で練習をすることで活動の見通しをもたせる。 ○離席してペアを組ませ、対話の相手を数回変えて対話を行い、疑問に思ったことなどを積極的に尋ねることで、自分の考えを広げる。 ○全体の場では、対話を通して自分の主張に自信をもったり、考えが変わったりするなど、自分の考えが広めたり深めたりできることを実感させる。	学習課題掲示 ワークシート 三角ロジック板書 ネームプレート
まとめ 10分	5 学習のまとめをする。 6 学習を振り返る。	全体  個人	○今日の授業で「友達との対話で学んだこと」「自分の意見や根拠が変わった(自信をもった)ところ」「自分の中で迷いが生まれたこと」等について振り返らせる。 ○次時は主張文を書くことを伝える。	